

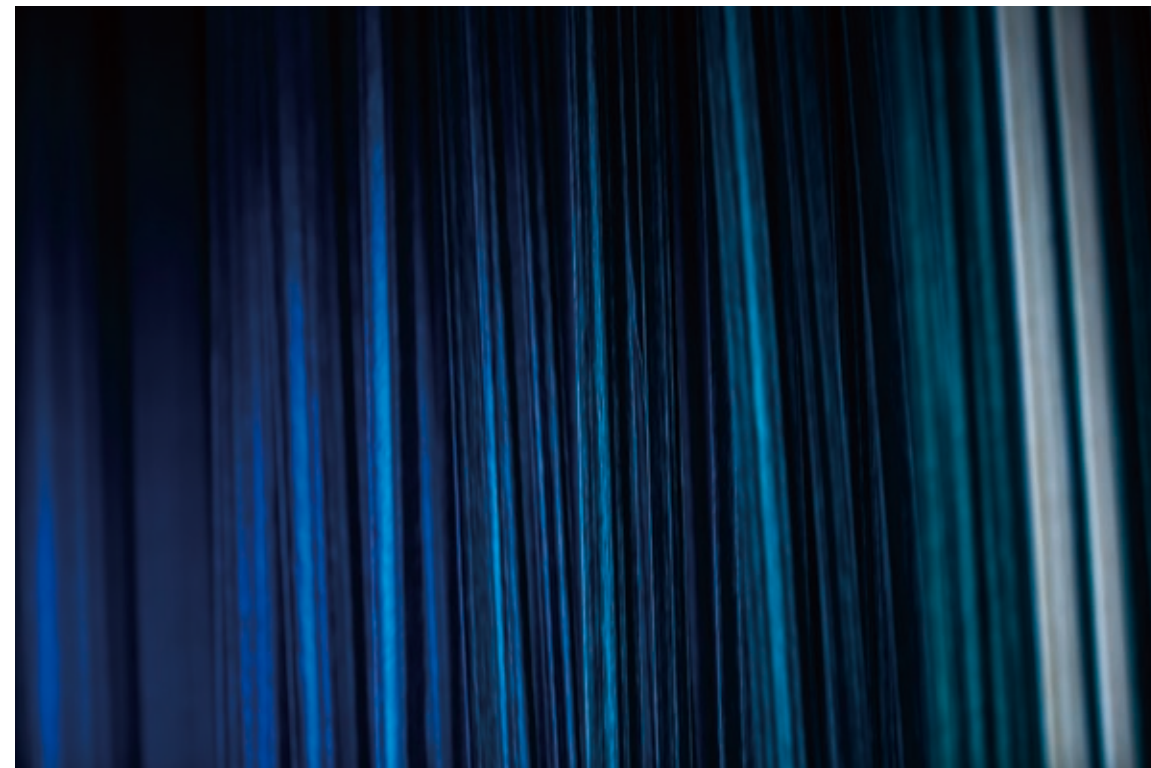
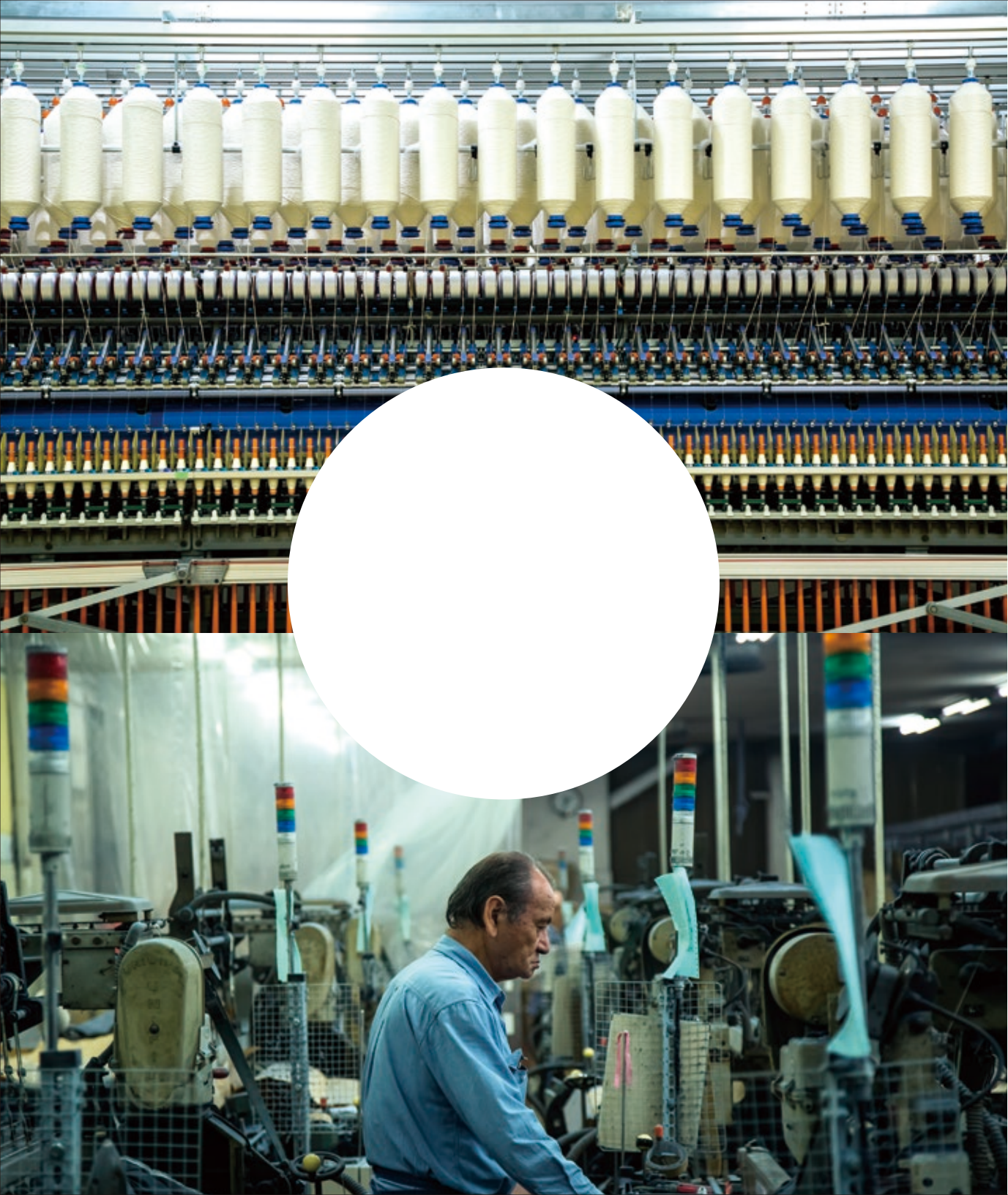


J A P A N D E N I M

the Masterpiece



JETRO HIROSHIMA Tel 082-535-2511 HIR@jetro.go.jp
JETRO OKAYAMA Tel 086-224-0853 OKA@jetro.go.jp



なぜ、JAPAN DENIMは
世界中で愛され、
選ばれているのか。

歴史

History

瀬戸内海沿岸、岡山県西部から広島県東部にまたがる備中(びっちゅう)・備後(びんご)地域は1600年代から綿花や藍の栽培が盛んで、日本有数の織物の産地として栄えました。

時を経て1960年代に入りジーンズが本格的に輸入されるようになると、若者を中心に人気が高まり、国産デニムの生産が加速。

紡績、染色、織布、縫製、加工といったデニムの生産に関わる知識と技術が集積し、シェア約80パーセントを誇る国内最大のデニムの産地へと成長を遂げたのです。

織物・藍染(あいぞめ)の伝統技術と独自のアイデアを注ぎ込むことによって日本ならではの進化を続け、オンリーワンの価値を生み出したJAPAN DENIM。

世界各国の名だたるファッションブランドにおいてブランド価値の向上に貢献し、今もなお多くのファンに愛され続けています。

ジャパндеニム
生産地マップ

Japan Denim
Production
Area Map





Photo at KUROKI Co., Ltd

セルビッジ

Selvage denim

旧式の力織機「シャトル織機」で織られ、生地両端に施された通称「耳」と呼ばれるほつれ止めが特徴的なセルビッジデニム。根強い人気の秘密は「風合い」。自動化された高速織機とは違い、シャトル機は職人の手でギア（歯車）を調整することで、スピードを緩め、横糸の開口部を広く取ることができます。これは日本独自の「ローテーション織」というセッティング法で、高速織機で織るフラットな質感とは違い、アナログならではの織りの緩さや不均一さによる自然な凹凸が優しい風合いを生み出します。計算しつくした「不完全さ」こそ、熟練の職人技。手仕事ゆえに通常の何倍も手間と時間がかかりますが、一枚一枚に宿る「個性」と、使うほどに見せる「豊かな表情」によって世界中のファンを虜にしてみせます。



Photo at KUROKI Co., Ltd



Photo at KUROKI Co., Ltd



Photo at SHOWA Co., Ltd



Photo at KUROKI Co., Ltd

ロープ染色
Rope dyeing

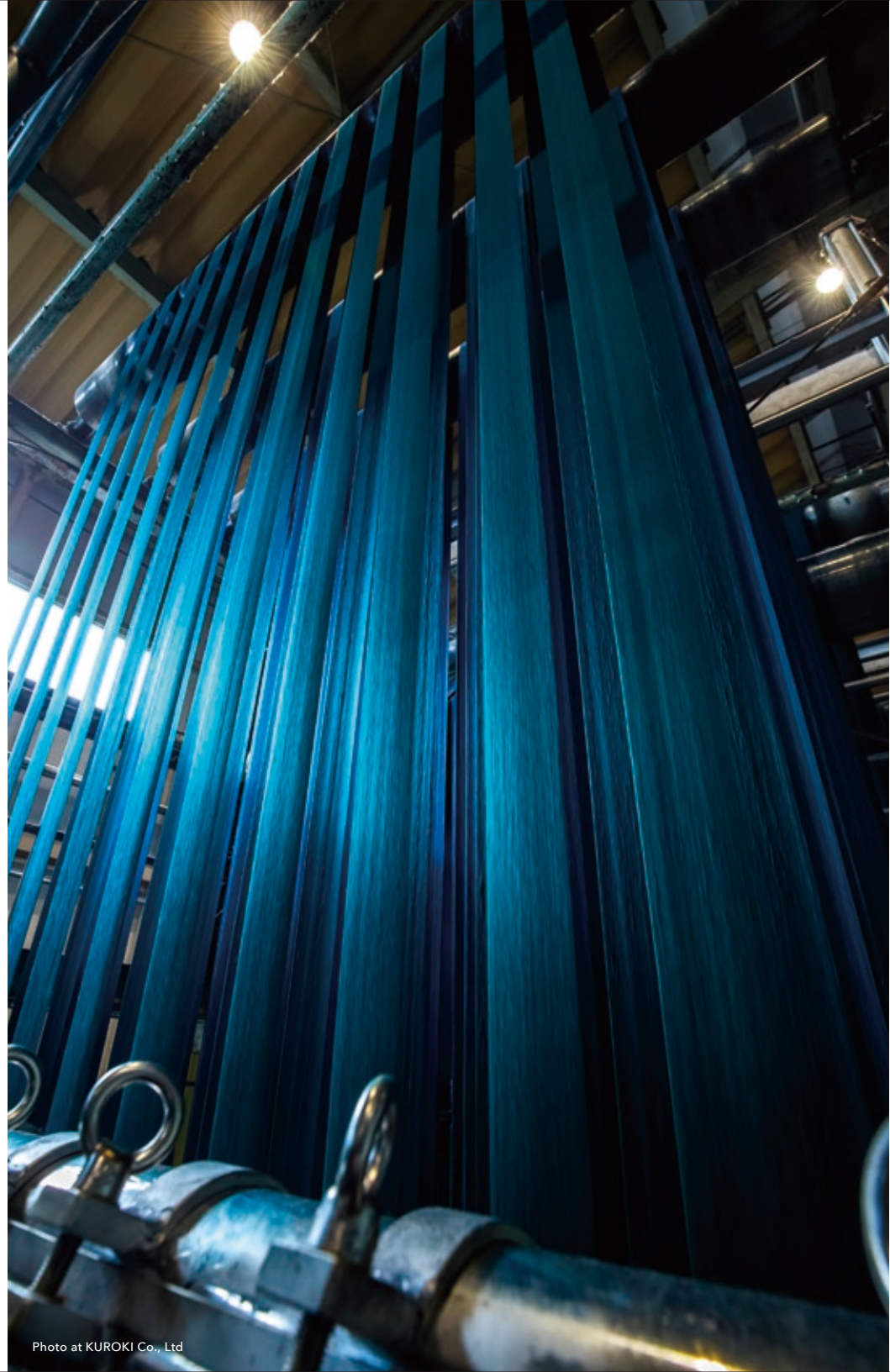


Photo at KUROKI Co., Ltd

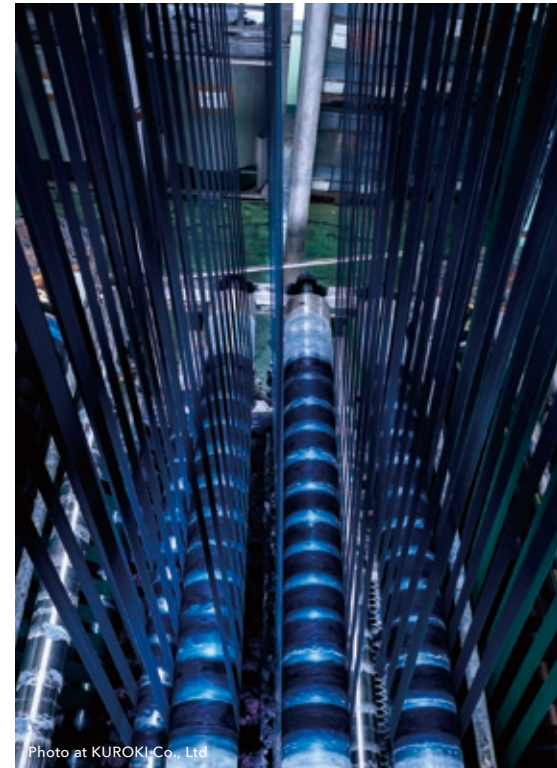


Photo at KUROKI Co., Ltd



Photo at KUROKI Co., Ltd



Photo at KUROKI Co., Ltd

機械や手法など詳細は各社の企業秘密とされるほどデリケートな技術といえるロープ染色。各社が独自に創意工夫し自社の個性と強みを生み出しています。たとえば40オンスもの太い糸の染色を安定した品質で実現したり、ほかでは出せない濃厚なインディゴブルーを表現したり。細い糸から太い糸まで、淡い色から濃い色まで、幅広い対応力はデザインの可能性を広げ、クリエイターの想像力をかき立てます。染色そのものへのこだわりだけでなく、染色段階で得た気づきや情報を前後の工程にフィードバックすることで品質向上にも努めています。たとえば染まりやすさや強度などの情報を基に、より染色に適した糸や強度の高い糸を開発すること。前後の工程と連携し、産地として品質の底上げを図る協力体制が、備中・備後製デニムの完成度を高めています。

整理加工 Organize & finish



Photo at SANYO SENKO Co., Ltd



Photo at SANYO SENKO Co., Ltd

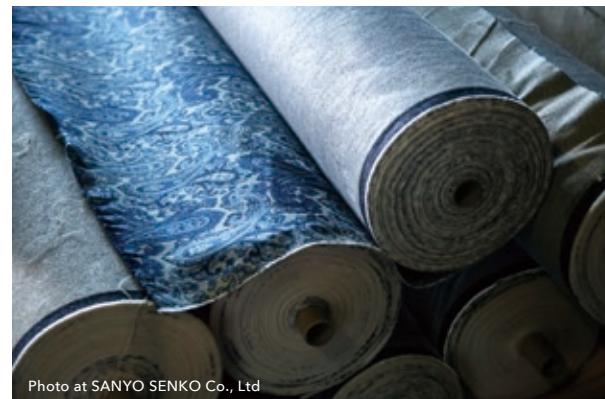


Photo at SANYO SENKO Co., Ltd



Photo at WHOVAL Co., Ltd



Photo at WHOVAL Co., Ltd



Photo at WHOVAL Co., Ltd

デニムに個性を宿し、商品価値を高める整理加工。たとえば、色を載せるプリントと違い、色を抜き、濃淡で柄を表現する「段落ち抜染」という技術。抜染剤は無色透明なため、抜染剤を通す段階では柄を目で確認できず、蒸したのち、水洗いが完了するまで仕上がりが分かりません。テストを繰り返し、本番では職人が目と感覚でプレス圧や柄を微調整して精度を上げます。濃色のデニムは、色を載せるのではなく「抜く」という抜染と好相性。色柄が剥がれることなく、もとの風合いをそのままに、長く愛用するほど自然な色落ちを楽しむことができます。洗い、擦り、リメイクなど各加工現場では、デニムが見せる無限の表情をいかに魅力的に引き出すかを、知恵と経験とアイデアを駆使して考え、切磋琢磨しています。求める表現を高い精度で実現する高度な技術、新たな価値を生み出そうとする創造力、そして何より、自らの手で世界中に最高のデニムを届けるのだという職人たちのプライドが、備中・備後における加工のクオリティーを高めています。

環境対策

Environmental measures

備中・備後は自然豊かな地域。工場のすぐそばには田んぼや畑が広がり、民家が立ち並びます。長きにわたり地域と共存してきた産業だからこそ、環境への影響に細心の注意を払うのは当然のこと。たとえば最新の高性能排水処理設備を完備したり、電解水による染色洗浄で薬剤や燃料の使用を抑制したり、環境負荷を極限まで排除して自然と共生できるサステイナブルなデニム製造を実践しています。



Photo at カイハラ株式会社



Photo at KAIHARA Co., Ltd

一貫生産体制と 専業・連携生産体制

Production systems -"Integrated" and "collaborative"

紡績、染色、織布、縫製、加工といった各工程において、専業で道を究めた企業同士が個の強みを生かしてつながり、一つの製品を創り上げる「専業・連携生産」という形。一社で複数の工程を手がけ、独自のノウハウを蓄積しながら徹底的に自らの理想とするデニムを追究する「一貫生産」という形。企業規模にかかわらず各々のスタイルで最高のデニムを目指しながら、生産地として進化しています。



Photo at Sakamoto Denim Co., Ltd

継承

Inheritance

日本製デニムの個性を表現するには、熟練の技術者の存在が欠かせません。オートメーションでは出せない「手仕事」ならではの風合いは、豊富な経験と高い感性の成せる技。この貴重な技を次代につなぐことが、産地としての価値を守る重要な鍵となります。備中・備後ではこの道何十年のベテランが若者を熱心に指導する光景が見られます。デニムを愛する若者が集まり、デニムへの深い愛と情熱も受け継がれています。



Photo at Shinohara Textile Co., Ltd



Photo at KUROKI Co., Ltd



Photo at Sakamoto Denim Co., Ltd

誰よりも高みを目指し切磋琢磨する職人たちは
誰よりもデニムを愛する一人のファンでもあります。

そんな彼らが命を吹き込んだJAPAN DENIM。

目で見て、手に触れた瞬間に、
そのデニムをまとった人々の笑顔が目に浮かぶことでしょう。